

《短報》

下関市三軒屋海岸の生物3種

松田真紀子<sup>1)</sup>・川野敬介<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>豊田ホタルの里ミュージアム・サポーター会員, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

<sup>2)</sup>豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

山口県下関市長府宮崎町三軒屋海岸 (33°59'N, 130°59'E) の昆虫類 (甲虫) については松田・川野 (2012) で報告した. この海岸ではそれ以降も継続的に調査を行い, 甲虫以外の昆虫類や等脚類, 多足類, 鋏角類などさまざまな分類群の生物の生息を確認した (未発表).

本報告ではこれまでの調査で得られた生物の中で特に生息数が少なく, しかも県内ではじめて確認された種についてのみ報告する. 以下, 各種について説明し, 【記録】は採集個体数, 採集日, 採集場所の環境の順に示した. 本文に先立ち, 有益なご助言を賜った林 成多博士 (ホシザキグリーン財団) と中島 淳博士 (福岡県保健環境研究所) に対し, 記して深謝申し上げる.

1. コガタウミアメンボ *Halobates sericeus* Eschscholtz, 1822 (図1)

【記録】: 3exs., 9. VII. 2013, 砂浜の漂着物の中

【備考】: 国内においてこの亜科には他に7種が知られる (林・宮本, 2005). 山口県内からこれまでこの亜科のアメンボは, シオアメンボ *Asclepios shiranui* (Esaki, 1924) (三好, 1994; 大木, 1995), ツヤウミアメンボ *Halobates micans* Eschscholtz, 1822 (三好, 1997), そしてケシウミアメンボ *Halovelia septentrionalis* Esaki, 1926 (大木, 2000) の3種が確認されていた. なお, シオアメンボとケシウミアメンボは沿岸性の種だが, ツヤウミアメンボとコガタウミアメンボは外洋性の種であり, 季節風や台風などによって海岸に漂着した個体が稀に採集される (端山, 2009; 中島ほか, 2011; 林・松田, 2011; 大原ほか, 2013).



図1. コガタウミアメンボ

今回, コガタウミアメンボを採集した日と前日は風が弱く晴れていたが, 2日前は大雨で, 4日前は暴風, 5, 6日前は終日大雨であり, 海岸には帯状に流木やゴミ, 海藻などが打ち上げられていた. 本種はこの漂着物の中において, 採集時まだ生きていたことから数日以内に漂着物とともに海岸に打ち上げられたものと思われた.

2. クロコブセスジダルマガムシ *Neochthebius granulosis* (M. Satô, 1963) (図2)

【記録】: 2exs., 30. V. 2013, 岩礁

【備考】: 本種は北海道から四国にかけての太平洋側に分布するとされていたが (吉富, 2003; 佐藤・吉富, 2005), 河上・林 (2007) により日本海側の島根県からも記録された. 今回, 本種を確認した場所は岩礁の岩の上で, そこは満潮でも海水に没しない場所であった. 同じ場所にはイソジョウカイモドキ *Laius asahinai* Nakane, 1955 などとも生息していた.

3. ノトチョウチンワラジムシ *Armadilloniscus* sp. (図3)

【記 録】: 1♀, 9. X. 2013, 砂浜の漂着物の中

【備 考】: ノトチョウチンワラジムシ *Koshiniscus notojimensis* Nunomura, 1990 は石川県の能登島から得られた1雄に基づき記載されたが (Nunomura, 1990), ハワイ諸島 (オアフ島) から得られた1雌に基づき記載された *Armadilloniscus hawaiiianus* Taiti and Ferrara, 1989 との同一種の可能性が指摘されている (Kwon, 1995). 本種は, 背面に大きなコブを持つという特徴的な形態により, 容易に既知の邦産種と区別できるが, 前述のように未だ分類が混乱しているため, 本稿では学名の確定は見送った. なお, シノニムとして *K. notojimensis* が抹消されたとしても和名は使われると思われることから和名は用いた.



図2. クロコブセスジダルマガムシ



図3. ノトチョウチンワラジムシ

引用文献

- 林 成多・松田隆嗣 (2011) 山陰地方の海岸におけるセンタウミアメンボとツヤウミアメンボの漂着. ホシザキグリーン財団研究報告, (14): 205-211.
- 林 正美・宮本正一 (2005) 「日本産水生昆虫 科・属・種への検索」: 291-378, 東海大学出版会, 東京.
- 河上康子・林成多 (2007) 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究 (2) 島根半島. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 37-76.
- Kwon, H. (1995) Terrestrial isopoda (Crustacea) from Cheju island, Korea. *The Korean Journal of Systematic Zoology*, 11: 509-538.
- 松田真紀子・川野敬介 (2012) 下関市三軒屋海岸で採集した甲虫類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (4): 49-54.
- 中島 淳・浅野海翔・川野 凜・松尾耕太郎・舟迫笑子・阿波連憲子 (2011) 福岡県におけるセンタウミアメンボとツヤウミアメンボの採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (14): 175-177.
- 大木克行 (2000) 山口県におけるケシウミアメンボの採集記録. 山口県の自然, (60): 27-28.
- 大木克行・三時輝久 (1995) 山口県の水生半翅. 山口県立山口博物館研究報告, (21): 21-34.
- 大原賢二・林 正美・山田量崇 (2013) 徳島県における外洋性ウミアメンボ3種の記録. 徳島県立博物館研究報告, (23): 69-75.
- 佐藤正孝・吉富博之 (2005) 「日本産水生昆虫 科・属・種への検索」: 591-658, 東海大学出版会, 東京.
- 吉富博之 (2003) 日本産ダルマガムシ科. 昆虫と自然, 38(2): 23-26.